MUSASHINO for TOMORROW Vol.93

巻　頭
生誕200年を迎えるシューマンの街を巡って
寺本まり子

武蔵野音楽学園創立80周年の記録
CONCERTS & EVENTS 2009

私の学園生活
全日本学生音楽コンクールに響いた武蔵野の歌声

April 2010
vol.93

平成22年度を迎えて

武蔵野音楽大学学長　同附属高等学校校長　福井 直敬

昨年度、武蔵野音楽大学は創立80周年を祝し、本誌に掲載してあるように一連の記念行事・演奏会等を成功裡に終了して、多数の方々から温かい祝意を頂戴しましたことを光栄に存じます。

時を同じくして昨年は、ドナウ川に沿った4つの国々それぞれと日本とが修好上の記念の年にあたり、本学とハンガリー・リスト音楽院のオーケストラによる交換演奏会が、「日本・ドナウ交流年2009」により各界が行う交流事業の一つとして認定されました。

双方の学生達は訪問先で大歓迎を受け、両国における演奏会が大成功のうちに終了して文化交流に大きく貢献でき得たことは、本学創立80周年に華を添える結果となり、大変嬉しく存じております。

再び春が訪れ、全国から有能な新入生諸君を迎えた平成22年度は、本学がこの80年の実績を踏まえ、次の世代へ向かってまた新たな発展を目ざす第一歩となります。

残念ながら、現在わが国は政治、経済、外交など多方面にわたり先行き不透明な状況にあり、人口動態からしても、総じて大学は大変厳しい環境に置かれております。

一昨年、認証評価機関から多くの「優れた点」を評価された本学でありますが、この激しい社会の変化をうけて、本年度は足元をしっかり見据え、FD活動の検証や改善、カリキュラムの一部見直しなど教育研究内容の一層の高度化、学習環境の向上を図るなど、さらには大学の持つ社会的責任の理解と遂行に地道に取り組み、一層質の高い大学を目ざしたいと考えております。

先年、音楽学部に設置した「ヴィルトゥオーソ学科」が完成年度を迎えたのにともない、新年度から修士課程に「ヴィルトゥオーソコース」を開設いたしました。また、文化審議会等で、その必要性が謳われるアートマネージャーやプロデューサー育成のための「音楽環境運営学科」も、本年は完成年度を迎えますので、教育成果に期待を寄せているところです。

新年度も取り組むべき課題が山積しておりますが、誠心誠意努力を傾注し、新しい飛躍への意義ある第一歩を進める決意であります。

皆様には一層のご理解、ご支援を賜わりますよう、お願い申し上げます。

▲ 春の武蔵野音楽学園 入間キャンパス

生誕200年を迎える シューマンの街を巡って

寺本まり子 ● 武蔵野音楽大学教授・音楽学者 ●

ドイツの音楽家の中には、J.S.バッハのように自らの生まれ故郷との深いかかわりの中で音楽活動を展開した者と、G.F.ヘンデルのように故郷から遠く離れた、広い世界で本領を発揮した者とがいる。今年生誕200年を迎えるローベルト・シューマン（1810―1856）は、前者のひとりであったと言えよう。本稿では、バッハと同様にドイツ東部を中心に活躍したシューマンの足跡を辿り、シューマンの音楽の源を訪ねてみたい。

ZWICKAU
ツヴィッカウ

1810年6月8日、シューマンはドイツ東南部の町ツヴィッカウに生まれた。この町はライプツィヒから汽車で南に2時間ほどのところにあり、東北方向にはザクセン選帝侯国の宮廷が置かれたドレスデン、南はチェコとの国境にも近く、エルツ山地を越えて南東60kmには保養地カールスバート（カルロヴィヴァリ）が控えている。東ドイツ時代には国民車トラバントの町として知られた

▲ 現在のツヴィッカウ

▲ 1830年頃のツヴィッカウ

寺本まり子
Mariko Teramoto

1971年武蔵野音楽大学音楽学部音楽学学科卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程を経て、1973-74年および1976-78年DAAD奨学生として旧西独フランクフルト大学古典語学・芸術学学群音楽学専攻博士課程に留学、1978年博士号を取得（Dr.Phil）。著書に『Die Psalmensammeldrucke des Johannes Petrejus』（フランクフルト大学音楽学叢書第10巻、Hans Schneider社、1983）、『Katalog der Musikdrucke von Johannes Petreius』（Catalogus Musicus 第14巻、1993）、『詩篇の音楽』（音楽之友社、2004）、『教会カンタータの成立と展開』（共著、アカデミア・ミュージック、1995）。訳書にコーマー『シューマンの歌曲集「詩人の恋」』（東海大学出版会、1980）、ザルメン『音楽家409人の肖像画第1巻』（音楽之友社、1988）、プッヘルト『ソナチネのすべて』（音楽之友社、1988）、『ヨハネス・デ・グロケイオ「音楽論」』（共訳、春秋社、2001）など多数がある。現在、武蔵野音楽大学教授・音楽学学科長、日本音楽学会、国際音楽学会、ドイツ音楽学会等会員。

ツヴィッカウには、中世ルネサンス時代に遡る豊かな歴史が培われてきた。早くも1291年には、市参事会によって少年聖歌隊員の養成を主な目的とした学校が設立され、1520年にこの町で説教をしたマルティン・ルターは、ライプツィヒのトマス教会付属学校合唱団より高いレヴェルであると評しているほどである。1537年に設置された学校付属図書館には、今日でも中世ルネサンス時代からの貴重な楽譜や蔵書が多数収められている。これは、ツヴィッカウの教養知識人が15世紀以来ライプツィヒで開かれていた書籍見本市で頻繁に購入したものが基礎になっている。

ザクセン地方の牧師の子として生まれた父アウグストは、すでにロンネブルクで書籍商を開業していたが、この町で1807年から弟と共にシューマン兄弟出版社を立ち上げ、書籍出版の町としてのツヴィッカウの名を高めることに貢献した。そして、その傍ら翻訳も行い、小説などの著作も残している。この出版社は、岩波文庫が範としたライプツィヒのレクラム文庫に先立って、ドイツで初めて文庫本シリーズを刊行したことで知られている。この会社がかなりの成功を収めたことは、ローベルトが少年時代の夏にゲーテやベートーヴェンも訪れたカールスバートやテープリッツといった保養地を家族と共に訪れている事からも分かる。1818年の夏にはカールスバートでモシュレスの演奏を聴き、後まで残る強い印象を与えられた。ローベルトは10歳でギムナジウムに入学すると、勉学の面で優秀な成績を挙げたばかりではなく、音楽とピアノ演奏にも熱中する。この時期には父の蔵書や書店の本を読み漁り、詩と音楽はひとつの源から発しているというシューマンの生涯に渡る理念が形成されていった。母方の祖母は文豪レッシング家の出であったから、母方も文学と密接な関係がある。

▲ 父 アウグスト・シューマン

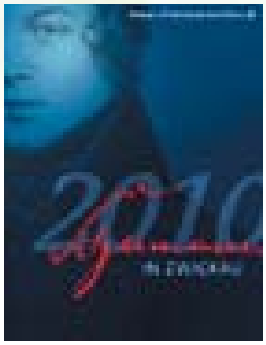
▲ 少年時代のシューマン（作者不明）

シューマンの生家はローベルト・シューマン協会によって、今日ローベルト・シューマン記念館として整備され、当時の住まいを展示室として公開しているばかりではなく、歌曲集《詩人の恋》やオペラ《ゲノフェーファ》などの貴重な自筆譜を所蔵する資料室は、ドイツ再統一後は後述するシューマン新全集の一翼を担っている。生誕200年に当たる今年最初の特別展（1月1日–3月21日）は「出版社から」と題され、父の出版社の文庫本シリーズを展示すると共に、息子ローベルトの仕事振りも見せている。14歳の頃に父の刊行物『全民族・時代著名人物図誌』に寄稿した文章や外国語の文章の翻訳、さらに彼が強い関心を示したバイロンのテキストによる作曲も展示されているのである。しかし、この作曲より2年前に、《詩篇150編》（ソプラノ、アルト、ピアノ、管弦楽）が「作品1」として作曲さ

▲ シューマンの生家（1860年頃）

▲ ツヴィッカウのシューマン記念館内部

れ、仲間の学生たちで演奏されたことは、シューマンの父方の祖父が牧師であったことを想い起こさせる。



▲ ツヴィッカウのシューマン祭

LEIPZIG
ライプツィヒ

ギムナジウムを優秀な成績で終えたローベルトは、父の遺言により、ライプツィヒ大学法学部に進学する。ライプツィヒは、9歳の頃最初にオペラ《魔笛》を観た町である。大学に在籍しながらヴィークにピアノを師事していたが、20歳の時に音楽の道に進むことを決意する。演奏、作曲ばかりではなく、『ライプツィヒ音楽新報』の編集と評論の執筆へと才能を開花させていく。こうした詩と音楽の一体化は、幾多の困難を克服してクララ・ヴィークとの結婚を果たした1840年には、詩を解釈した歌曲の奔流となって、流れ出していく。結婚に際して、シューマン夫妻はクララが「小さいけれども居心地の良さそうな、心和む住まい」と記しているインゼル通りの新居に移った。ベルリオーズ、リスト、メンデルスゾーン、アンデルセンといった著名な同時代人たちが訪れたこの家は、当時の姿のままで保存され、ライプツィヒのローベルト・ウント・クララ・シューマン協会によって1999年からシューマン記念館として公開されている。そしてシューマン夫妻の結婚記念日とクララの誕生日、つまり9月12－13日を中心として、毎年シューマン週間が開催されている。

DRESDEN
ドレスデン

詩と音楽との一体化の試みは、ドレスデンでさらに強まる。ライプツィヒの音楽界との関係を断ち切り、『音楽新報』の仕事から手を引いてドレスデンに転地したシューマンは、先ず対位法の研究を通して心身の回復を図った。そして、ドレスデンのリーダーターフェルの創設者フェルディナンド・ヒラーやリヒャルト・ヴァーグナーらとの新しい交わりの中で、長年の念願であったオペラの完成を目指していく。音楽と文学を高い次元で結合する努力が高まった1848年には、ヘッベルの戯曲によるオペラ《ゲノフェーファ》が進展すると共に、少年の頃から惹かれていたバイロンの《マンフレッド》による劇音楽が完成した。さらにその流れはゲーテへと向かい、詩人の生誕100周年に当たる翌年には《ファウストからの情景》、《ヴィルヘルム・マイスターによる歌曲集》、《ミニヨンのためのレクイエム》が相次いで生まれた。ツヴィッカウでは本年6月8日に、バレンボイム指揮のベルリン国立歌劇場管弦楽団によって公式式典が行われ、このオペラ《ゲノフェーファ》が新演出で上演される。そしてシューマン記念館では特別展「シューマンの時代の生活」がオープニングする予定である。

DÜSSELDORF
デュッセルドルフ

1850年9月2日、シューマンはヒラーの後任の音楽監督としてデュッセルドルフに到着する。生まれ故郷のザクセン地方から離れて、人生で唯一の公的地位に就任したのである。このライン河畔の商業都市の派手で社交的な性格は、シューマンの到着に際してリーダーターフェルが歓迎のセレナードを演奏、2日後にはオーケストラも祝賀セレナードを催したことにも表れていると言えよう。そんな晴れやかな雰囲気に刺激されたように、シューマンは

▲ 現在のデュッセルドルフ

▲ 1832年のデュッセルドルフ（ランゲの絵画）

『家計簿』の9月12日の欄に「私たちの結婚10周年記念日」と記し、翌日にはクララへの誕生日プレゼントとして「オーデコロン6瓶、上質の紅茶1ポンド、花束、ケーキ、メロン、シャンパン、現金」を記入している。音楽監督は自分で掌握できる管弦楽団をもてたため、着任から1854年2月まで、交響曲第3番《ライン》、《薔薇の巡礼》、《レクイエム》などシューマンの全作品のおよそ3分の1が生み出されていく。しかしシューマンの神経性の病気は進行し、管弦楽団や合唱団との関係は悪化していく。それに伴い、シューマン一家は4回の引越しを重ね、1852年9月19日に「ローベルトの部屋はとても居心地がよく静か」とクララが記しているビルカー通りの住まいに移った。ここでクララは自分の部屋を確保することができ、結婚以来二人が一番気に入っていた家であるが、ここが二人の最後の家となった。ちょうど1年後にブラームスが訪れたのもこの家である。

当時のままに保存されたこの家は、2003年からデュッセルドルフのシューマン協会によって、シューマン記念館として整備されている。そして、この記念館の真向かいがハインリヒ・ハイネ研究所であり、この研究所の資料室の音楽部門には主にシューマンのデュッセルドルフ時代の作品の自筆譜や初版譜、書簡などが多数所蔵されている。デュッセルドルフのシューマン協会は、今年は「SCHUMANN 2010」のモットーの下で世界中の一流の音楽家を招き、1月からの1年間でシューマンの全作品を演奏する企画を始めている。

この「全作品」という考え方は、シューマン協会が創設したシューマン研究所によって1991年から刊行されているシューマン新全集（マインツ、ショット社）の考え方とも符合している。全7シリーズ65巻の内まだ15巻しか出版されていないが、完成された作品ばかりではなく、第7シリーズにはピアノ・スコアや編曲、スケッチや習作が収められている。さらに、「詩と音楽は源を同じくする」というシューマンの理念の反映として、「第8シリーズ：別巻（全5巻）」には、『図像とドキュメントによるシューマンの生涯』や『主題目録』、『シューマンの作曲したテキスト』と共に、『シューマンの著述集』も予定されている。そして、生誕200年の本年、「第6シリーズ：歌曲」から最初の巻として第6巻が出版されることは真に喜ばしいことであり、詩と一体となった音楽の演奏と研究がよりいっそう進展することが期待される。

▲ デュッセルドルフのシューマン夫妻の最後の住まいを示すレリーフと記念板

▲ ハイネ研究所から見たその住まい

・音・楽・余・話・ ペダルは足で踏む？

前回に引き続き、ペダルの話。右のペダルがダンパーをコントロールするのに対し、左のペダルは弦を打つハンマーをあらかじめ少しだけ横にずらして、弦に当たる位置を変えることで、音色を柔らく（弱く）変化させる装置である。

ペダリングを記録する装置を考案した調律師ボギーノが、リヒテルのペダリングを検証したことは前号で述べた通りであるが、この時リヒテルは、自分自身が予想外に頻繁に左のペダルを使っていることに驚いていた。さらに、興味深いことに彼は、一般に「弱音ペダル」と呼ばれるこのペダルを、時にはフォルティッシモの部分でも使っていたのである。左のペダルを踏みながら、どのようなタッチで弾くか、またそれを右のペダルとどのように組み合わせるか、ありとあらゆる方法を、彼はおそらく半ば本能的に変幻自在に駆使していた。偉大なピアニストは鍵盤の魔術師であると同時に、ペダルの魔術師でもある。

ピアノと言う楽器が、あらゆる楽器の王者であることを否定する人は少ないであろう。しかし、もしペダルがなかったら、この楽器がこれほどの地位を獲得することはなかったに違いない。

さて、タイトルの設問に対する、私とわが妻ジュリアそれぞれの回答。

コンスタンティン・ガネフ“ペダルは 頭で踏むものである。”

ジュリア・ガネフ“ペダルは 耳で踏むものである。”

（訳：重松万里子）

コンスタンティン・ガネフ
（本学客員教授）

武蔵野音楽学園創立80周年の記録

MUSASHINO ACADEMIA MUSICAE 80th ANNIVERSARY

CONCERTS & EVENTS 2009

昭和4(1929)年、西洋音楽の普及に情熱を燃やす創立者 福井直秋先生と、その教育理念に賛同する教職員、そして理想の音楽学校設立を切望する学生たちによって武蔵野音楽学校として誕生した武蔵野音楽学園。以後、戦中・戦後の厳しい時代、昭和から平成への激動の時代を乗り越え、昨年、創立80周年という輝かしい区切りの年を迎えることができました。ここに、記念行事として行われたさまざまなコンサートやイベントの模様をまとめました。

武蔵野音楽大学附属江古田音楽教室
第19回オペラ公演

「ふしぎな魔法の笛」

大学附属江古田音楽教室では、数年ごとにオペラ公演を実施。キャスト、合唱、オーケストラ、練習ピアニストまで、子どもたちによるオペラは珍しく、完成度の高さと情操教育への優れた効果が、内外から高く評価され、関心が寄せられています。

1／11（日）・12（祝）　ベートーヴェンホール（江古田）

演出＝大谷洌子　指揮＝前田 淳

武蔵野音楽大学オペラ公演

「コジ・ファン・トゥッテ」

武蔵野音楽大学には正規のカリキュラムにオペラコースがあり、オーディションで選ばれた学生たちが著名な指揮者や演出家のもとで研鑽を積み、その成果を毎年試演会や数年ごとのオペラ公演で発表しています。

4／29（祝）・30（木）・5／2（土）・3（祝）
ベートーヴェンホール（江古田）

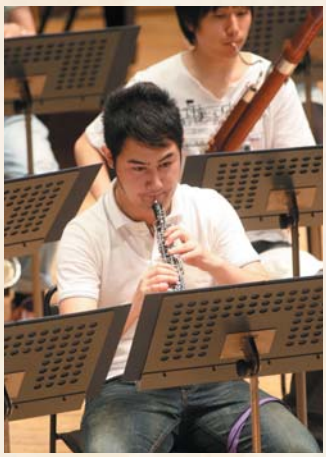
指揮＝北原幸男　　演出＝恵川智美

武蔵野音楽大学

ウィンドアンサンブル演奏会

7／ 5（日）郡山市民文化センター 大ホール【写真①】
7／ 7（火）りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館コンサートホール
7／15（水）東京芸術劇場 大ホール【写真②】

指揮＝レイ・E.クレーマー
トランペット＝橋本 洋　トロンボーン＝ 桒田 晃
曲目＝J.トゥリン：トランペットとトロンボーンのための「ファンダンゴ」、J.ギロー：イタリアン・ラプソディ、2009年度全日本吹奏楽コンクール課題曲　他



武蔵野音楽大学

室内管弦楽団演奏会

クルト・グントナー教授の指導のもと、本学室内管弦楽団が創立80周年を契機に、定期的な活動を開始しました。

7／10（金）
日本大学カザルスホール

指揮＝クルト・グントナー
ヴァイオリン＝溝邉奈菜
ピアノ＝梅田竜士
曲目＝モーツァルト：カサシオント長調 K.63、メンデルスゾーン：ヴァイオリンとピアノのための協奏曲 ニ短調　他

武蔵野音楽学園創立80周年記念　日本・ハンガリー国交回復50周年記念 交換演奏会

武蔵野音楽大学管弦楽団演奏会／リスト音楽院管弦楽団演奏会

2009年は、「武蔵野音楽学園創立80周年」と同時に「日本・ハンガリー国交回復50周年」の年でもありました。以前よりハンガリーと馴染みの深い本学園では、双方の連携によりリスト音楽院との交流を実現。本学管弦楽団が国内4ヵ所につづきハンガリー5都市で公演、交換事業として、リスト音楽院管弦楽団が来日して5会場でコンサートを開催。両国でいずれも大好評を博しました。

武蔵野音楽大学管弦楽団　日本公演

9／ 8（火）バッハザール（入間）【写真①】
9／ 9（水）東京オペラシティ コンサートホール 【写真②】
9／12（土）石川県立音楽堂 コンサートホール 【写真③】
9／13（日）富山市芸術文化ホール オーバード・ホール

指揮＝カールマン・ベルケシュ
ピアノ＝竹中千絵、荒井茉里奈
　　ガボール・ファルカシュ（ハンガリー公演のみ）
ソプラノ＝クララ・ヴィンチェ
テノール＝ダニエル・パタキ＝ポチョク
曲目＝コダーイ：オペラ〈ハーリ・ヤーノシュ〉より「ドナウの彼方」
　　リスト：ピアノ協奏曲 第2番イ長調
　　チャイコフスキー：交響曲 第6番ロ短調 Op.74「悲愴」 他

武蔵野音楽大学管弦楽団　ハンガリー公演

※演目等は日本公演と同じです。

9／23（水）リスト音楽院 大ホール（ブダペスト）【写真④】
9／24（木）ペーチ医科大学ホール（ペーチ）【写真⑤】
9／25（金）ケルチェイ・カルチャーセンター（デブレッツェン）【写真⑥】
9／26（土）ヤーノシュ・リヒター・コンサートホール（ジュール）【写真⑦】
9／27（日）ヤーサイ・マリ・シアター（タタバーニャ）

リスト音楽院管弦楽団　日本公演

11／18（水）東京芸術劇場 大ホール
11／22（日）パレア若狭
11／24（火）飛騨市文化交流センター
11／20（金）練馬文化センター 大ホール
11／23（月）ハーモニーホールふくい

指揮＝カールマン・ベルケシュ　　ピアノ＝ガボール・ファルカシュ
ヴァイオリン＝アダム・バンダ　　チェロ＝イシュトヴァン・ヴァルダイ
曲目＝リスト：ピアノ協奏曲 第1番 変ホ長調
　　ベートーヴェン：交響曲 第7番 イ長調 Op.92　他

JAPAN

◀▲ 東京芸術劇場　来日したリスト音楽院管弦楽団と本学福井直昭教授が共演

武蔵野音楽大学［第15回］

インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ

プロの音楽家や音楽教育に携わる人に専攻実技を磨く絶好の場を提供する「武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ」。15回目となる今回も、世界的に著名な教授陣を多数迎え、江古田キャンパスにおいて開催されました。

7／19（日）～29（水）　会場＝江古田キャンパス

講師　ピアノ＝K.ガネフ、K.ゲキチ、I.イーティン、J.ヤンドー、A.ナセトキン、A.セメツキー　　ピアノデュオ＝K.ガネフ
　　ヴァイオリン＝R.ダヴィドヴィッチ　　フルート＝M.ファウスト、M.ラリュー　　声楽＝松本美和子、堀内康雄

HUNGARY

武蔵野音楽大学海外演奏旅行の歴史

- 1977年（第1回）／管弦楽団【ヨーロッパ】
  “ベートーヴェン没後150年記念行事”出演
- 1981年（第2回）／管弦楽団【ヨーロッパ】
- 1983年（第3回）／ウィンドアンサンブル【アメリカ】
- 1986年（第4回）／管弦楽団【ヨーロッパ】
- 1991年（第5回）／管弦楽団【ヨーロッパ】
- 1993年（第6回）／管弦楽団【中華民国】
- 1993年（第7回）／室内合唱団【ヨーロッパ】
  “Cantemus'93国際合唱フェスティヴァル”出演
- 1995年（第8回）／ウィンドアンサンブル【アメリカ】
  “ミッドウェスト・クリニック”出演
- 1996年（第9回）／管弦楽団【ヨーロッパ】
- 1999年（第10回）／管弦楽団【ヨーロッパ】
- 2001年（第11回）／管弦楽団【ヨーロッパ】
  “ブダペスト・スプリングフェスティヴァル”出演
- 2006年（第12回）／ウィンドアンサンブル【アメリカ】
  “ミッドウェスト・クリニック”出演
- 2009年（第13回）／管弦楽団【ヨーロッパ】
  “日本・ドナウ交流年2009”交流事業

武蔵野音楽大学

室内合唱団演奏会

9／30（水）　ベートーヴェンホール（江古田）
指揮＝栗山文昭

新たに栗山文昭教授を指導者に迎え、活発な活動を行っています。

武蔵野音楽学園創立80周年記念

同窓生のための演奏会・祝賀会

創立80周年を記念し、入間キャンパスに同窓生を招き、記念演奏会と祝賀会を盛大に開催しました。

10／10（土）　バッハザール及び体育館（入間）

【左上より時計回り】立野至美（ソプラノ）・大坪由里（ピアノ）／千田悦子（ハープ）／向後崇雄（ファゴット）・布施亜紀子（ピアノ）／前田菜々子（ピアノ）／田島 勤（トランペット）藤枝照久（オルガン）

体育館

武蔵野音楽学園

創立80周年記念式典

満席のベートーヴェンホールにて、創立80周年記念式典が厳粛に挙行されました。

12／4（金）　ベートーヴェンホール（江古田）

前奏＝シャルパンティエ：《テ・デウム》より 前奏曲
　　パーセル：トランペット ヴォランタリー
　　トランペット＝田島 勤　オルガン＝藤枝照久
奏楽＝ハイドン：オラトリオ《天地創造》Hob.XXI：2 より
指揮＝ヨゼフ・ツィルヒ　合唱指揮＝栗山文昭
独唱＝佐藤美枝子（Sop.）、眞塩 直（Ten.）、大西宇宙（Bar.）
管弦楽・合唱＝武蔵野音楽大学管弦楽団合唱団

武蔵野音楽学園創立80周年記念特別公開講座

R.ラリー・トッド教授 講演会

メンデルスゾーン研究の世界的権威

「メンデルスゾーン生誕200年によせて」

10／19（月）・22（木）　モーツァルトホール（江古田）

武蔵野音楽学園創立80周年記念特別公開講座

リスト音楽院院長 アンドラーシュ・バッタ氏 特別講演会

「ハンガリーの音楽・音楽教育、リスト音楽院について」

11／19（木）
モーツァルトホール
（江古田）

武蔵野音楽学園

創立80周年記念祝賀会

12／4(金)　目白 椿山荘

各方面から多数のご参加を得て、祝賀会が和やかに開催されました。

武蔵野音楽大学

管弦楽団合唱団演奏会

サントリーホールで、創立80周年に因み、ハイドン作曲「天地創造」が華やかに奏されました。

12／5（土） バッハザール（入間）
12／7（月） サントリーホール 大ホール【写真①】

指揮＝ヨゼフ・ツィルヒ　合唱指揮＝栗山文昭
独唱＝佐藤美枝子（Sop.）、眞塩 直（Ten.）、大西宇宙（Bar.）
曲目＝ハイドン：オラトリオ《天地創造》Hob.XXI：2

❶

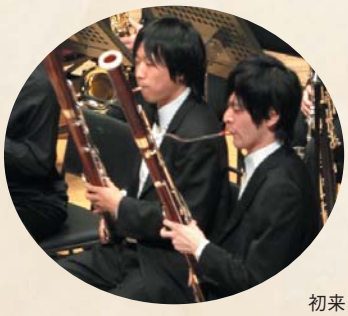
武蔵野音楽大学

ウィンドアンサンブル演奏会

フィナーレのマスランカ「交響曲 第4番」はまさに迫真の演奏でした。この演奏会をもって、一連の創立80周年記念行事が終了しました。

12／17（木）　東京オペラシティ コンサートホール

指揮＝ジェームズ・ランブレクト
曲目＝J.ズデクリック：セレブレーションズ、J.H.ダウニング：管楽器と打楽器のための交響曲より 第1楽章「ダンシング・デイ」、D.R.ギリングハム：4人の打楽器奏者と管楽器のためのコンチェルティーノ、I.ハーシェン：バンドのためのディヴェルティメント、D.マスランカ：交響曲 第4番



初来日の
ジェームズ・ランブレクト氏▶

Campus Eye

次世代へ――ベートーヴェンホールのオルガンがリフレッシュ

江古田キャンパス ベートーヴェンホールのパイプオルガンが、学園創立80周年を期して、昨年大規模なオーバーホールを終えました。

4段手鍵盤と足鍵盤、55のレジスターを持つこのオルガンは、1961（昭和36）年に、当時本邦初、アジア圏最大のコンサートオルガンとしてドイツ・ボン市のクライス社が建造した歴史的な楽器。落成式のウィルヘルム・ケンプを始め、このオルガンによるカール・リヒター、ピエール・コシュロー、ヘルマン・ケラーらの名演奏は今でも語り継がれています。また卒業式や入学式の感激のシーンを演出してきた、ベートーヴェンホールの顔とも言える存在です。

今回の作業は、3名のドイツ人マイスターにより11週間に及び、ネオバロックスタイルにフランス趣味の音色を加味した伝統の響きをリフレッシュさせるだけではなく、オルガニストの芸術性を支える音色の組み合わせ（レジストレーション）のプリセットには、USBメモリーを有する8,000通りのデジタルメモリーが加設され、次世代のオルガニストの新しい演奏の可能性を拡げる装置です。繊細で個性豊かな歴史的オルガンが、時代を超えて今もなお演奏されるのは、オーバーホールによるメンテナンスのおかげであると言われます。修復されたこのオルガンもまた、新たな感動と伝統の響きを育んでいくことでしょう。

奇しくも今年はベートーヴェンホール落成50周年にあたり、来年はオルガン設置50周年になります。この秋には記念演奏会も予定されています。ご期待ください。

音楽の万華鏡⑪

ベートーヴェンと二つの作曲コンクール

今年はシューマンとショパンの生誕200年にあたっています。作曲家の記念の年をめぐる時代が、その作曲家を求めているのを感じます。たとえば、NHK交響楽団が定期公演を始めたのは1927年、ベートーヴェン没後100年にあたる年でした。N響はその年の定期公演に、ベートーヴェンの交響曲や協奏曲をシリーズとして組んでいます。その後ドイツからヨゼフ・ローゼンシュトックを常任指揮者に迎えてN響は「ベートーヴェン・チクルス」を組んでいます。

「ベートーヴェン・チクルス」を組んでいた1937年にN響は、創立10周年を記念して日本の作曲家を対象にオーケストラ作品の作曲コンクールを行います。27の応募作の中からローゼンシュトックが選び出したのは、平尾貴四男、深井史郎、江文也、諸井三郎、荻原利次の作品でした。その頃、ウィーン国立歌劇場の音楽監督を務めた経歴をもつフェリックス・ワインガルトナーもN響の指揮に当たり、「ベートーヴェン・プログラム」を組むほか、「ワインガルトナー賞」と称して日本の作曲家にオーケストラ作品を公募します。80を超える応募作の中からワインガルトナーが選んだのは、箕作秋吉、呉泰次郎、大木正夫、早坂文雄、尾高尚忠の作品でした。ローゼンシュトックが、どちらかというと民族主義の作風を選んでいるのに対し、「ワインガルトナー賞」では、尾高、箕作、呉など、ドイツ古典・ロマン派の音楽の流れを汲む作曲家が選ばれていると言えるでしょうか。

日本の楽壇にとって、ベートーヴェンは求心の対象だったのでしょう。ベートーヴェンの正統的な演奏を習得すべく本場から高名な指揮者を招く一方で、遠心作用のようにベートーヴェン以外の作品を求めていたのでしょう。ショパンとシューマンが求心の対象であるとすれば、遠心になるのは何でしょうか。

楢崎洋子（本学音楽学教授）

全日本学生音楽コンクールに響いた武蔵野の歌声

“学生音コン”として馴染みの深い全日本学生音楽コンクール。60年以上の歴史を誇るこの由緒あるコンクールの声楽部門（大学・一般の部）において、武蔵野の学生がこのところ輝かしい結果を残しています。今回は優勝者、入賞者の方々4名に集まっていただき、コンクールにまつわる思い出やエピソード、ご自身の音楽に対する考えや後輩へのメッセージなどを伺いました。（2010年2月収録、文責編集部、略歴は収録時現在のもの）

コンクールと学業の両立

――最初に、このコンクールを受けようと思った動機、きっかけをお聞かせください。

守谷由香 *Yuka Moriya*

■第60回全日本学生音楽コンクール声楽部門、大学・一般の部 第1位（大学院2年時）

嘉悦女子高等学校卒業。武蔵野音楽大学声楽学科卒業、同大学院音楽研究科修士課程修了。清水 純、倉沢一郎、佐橋美起、W.マッテウッツィ、E.オブラスツォワの各氏に師事。第75回読売新人演奏会、本大学卒業演奏会および新人演奏会、オペラ公演に出演。二期会オペラ研修所第52期マスタークラス修了、修了時優秀賞受賞。二期会会員。

守谷　大学4年のときに初めて予選に行って皆さんの素晴らしい演奏を聴き、すごいな、私もいつかチャレンジしたいなと思ったのがきっかけです。大学院1年生のときは声のことやレパートリーのことで、いろいろと迷ったり悩んでいた時期でもあり、恩師の佐橋美起先生とも相談のうえ、1年間は我慢して基盤を作ろうということにしました。それで、大学院2年になって、年齢制限が24歳までなので、最初で最後の勝負に賭けたということです。ちなみに、コンクールを受けたこと自体もそれが最初でした。

大西　僕は大学3年のときに守谷先輩と同じオペラコースに進んだのですが、3、4年の頃はコンクールは受けませんでした。大学院に入って改めて外の世界を知りたくなり、先輩から聞いていたコンクールを思い出してチャレンジしました。

杉山　私は小畑朱実先生が勧めてくださったのがきっかけです。それまではコンクールのことはあまり考えてなかったのですが、年齢制限もあり、最後の年でしたので是非チャレンジしてみようと思いました。ただ出場を決めたのが4月頃でしたので、準備期間が短く、とても焦ったのを覚えています。

波佐間　私は高校の頃から受けていて、今回で4回目の挑戦です。今まで3回は全部予選落ち。大学2年のときも予選落ちで悔しい思いをしたので、1年間すごく勉強して、4年のときには絶対に取ってやろうという思いでした。ずっとオペラ歌手になりたいと思っており、単純に場数を踏みたいという気持ちもありました。

――コンクールを受けるまでの準備、ご苦労などをお聞かせください。

守谷　具体的な準備は大学院2年になってからで、コンクールに焦点を当てたレッスンを始め、レパートリーの充実を図りました。コンクールに向いている曲は何か、課題曲の中で自分の個性、良さが一番出るのはどの曲か、一つひとつ丁寧に先生から指導とアドバイスをいただきながら決めていきました。

　また、このコンクールは夏の予選から秋の本選、冬の全国大会まで約半年かけて行われるので、その期間集中力を絶やさないことに心がけました。あとは普段の授業との両立ですね。中でもオペラコースの授業は、私にとって大学での一番大きな財産になっているのですが、その分、とても厳しく、コンクールがあるから授業に参加できないとか、授業に遅れが出るというのは許さ

れません。私は不器用な人間なので、並行してやっていくことは難しかったですね。大学院2年生でしたので論文もあり、一つひとつのことに全力を傾けました。しかも全国大会の2日前に風邪をひいてしまい、精神的にも肉体的にも大変でした。

大西　僕も授業との両立は大変でした。オペラコースの試演会という集大成的な本番が11月の中旬にあり、その2、3週間後に全国大会を控え、気持ちを切り替えて全部同時進行で進めていくのは大変でした。コンクールは学外のものなので、守谷先輩がおっしゃったように、大変なことを覚悟で受けるのが当たり前だと思います。先生たちも敢えて手加減しないとおっしゃっていました。僕もコンクールのときは、オペラコースの授業と被らないかどうかだけを先に確認してから出ました。

杉山　本選の前に全国大会の曲目を提出していたのですが、勉強不足でまだ曲が完成していないというか、全然練り込んでいない状況でした。まさか全国へ行けるとは思っていなかったので、全国大会までの1ヵ月間は、やることが多く、とても焦っていました。曲の譜読みと共に論文もあり、授業もありますので、毎日が時間との戦いで、怒濤の半年間でした。

波佐間　私は3年のときに好きな作品群に出会い、これなら勝負できるという曲を見付けたので、予選、本選に関しては楽しんで歌えました。でも全国大会のときはインフルエンザの病み上がりで練習期間に全然声が出せなかったため、少し不安な気持ちを抱えて出場したんですけれども、本当に楽しく自信を持ってできました。声が出せない期間はイメージトレーニングをしていましたが、すごく難曲だったので、イメージトレーニングだけだと不安な部分がありました。

受賞を今後の糧に

――コンクール当日のことで印象に残っていることはありますか。

守谷　印象的だったのは、女性楽屋の独特の空気です。すごく狭いうえに、楽屋が発声の場所を兼ねているので、着替えている人のすぐ脇で声をガンガン出していたり、細かいパッセージの練習をずっとやっていたり。そんな状況の中でどれだけ自分の精神的コンディションをキープできるかと考えたとき、私は楽屋を出てしまいました。声を出すことよりも、精神的に落ち着けることのほうが必要だと直感的に感じたからです。

武蔵野の学生はとても心の優しいところがあって、みんなでうまくなっていけばいいねという空気の中で伸び伸び育ってきたので、他大学の人たちの中では萎縮してしまうところがあるようです。ドレスの大きさや柄などからして違います。武蔵野の子はシンプルで落ち着いた色のものを好むのですが、他大学の子たちと比べてみると、見劣りしているという感じになってしまうみたいです。

大西　コンクールというのは勝ち負けなのですが、そういう気持で臨むべきではないと思います。とにかく自分のベストを尽したいと思って臨みました。コンクールは勝とうと思ったら負けというところがあると思うのです。自分の歌をいろいろな人に聞いてもらいたいからコンクールを受ける、そうありたいと思っています。

大西宇宙 *Takaoki Onishi*

■第62回全日本学生音楽コンクール声楽部門、大学・一般の部 第1位（大学院1年時）

東海大学付属相模高等学校卒業。武蔵野音楽大学声楽学科卒業、同大学院音楽研究科修士課程2年。菊池英美、E.オブラスツォワ、横山修司の各氏に師事。本大学卒業演奏会、オペラ公演、管弦楽団・合唱団定期演奏会《天地創造》に出演。第39回イタリア声楽コンコルソ ミラノ部門にて金賞および大会史上初のバリトン特賞を受賞。

杉山　東京大会の予選、本選はやはりギスギスした感じで息苦しかったですね。でも全国大会では、みなさん落ち着いていて穏やかで、その空気がすごく心地良かったです。私は東京大会で奨励賞を頂き、全国大会に出場させていただくことだけで光栄に思っていましたので、賞のことは全く考えていませんでした。ただ、小畑先生のレッスンでのご指導を思い出しながら、自分の歌に集中することだけを考えていました。全国大会が終わった後では、審査員の方が一人ひとりに講評をくださり、それが大変勉強になりました。

波佐間　私はコンクールの楽屋の雰囲気は割と好きなほうで、そういうのがあるからこそ、競争心が芽生えて楽しい部分もあります。ピリピリ感や緊張感がこれぞコンクールみたいな感じで、それを楽しみました。ヴィルトゥオーソ学科は競争し合うような環境でもありますので、自然とそうなったのかもしれません。

――受賞によって得たもの、変わったこと、今後に向けてプラスになった点などありますか。

守谷　とにかく2日前に風邪を引いて、声が出なくなった中での本番でした。ちゃんと歌えるかということだけを考えていたので、結果を聞いた瞬間は、何

が起こったのか理解できませんでした。1位をいただけて、先生や伴奏者、周りへの感謝というものを何よりも学んだ気がします。また、1位になったことにより、大学から第4種の奨学金をいただくことができました。資料や楽譜を手に入れるのに、とってもありがたい費用となりました。

大西　優勝したことで、いろいろと仕事や人の和がつながっていったということが大きいですね。僕のときの審査員に先輩の佐藤美枝子さんがいらっしゃって、何かの縁だと思いましたが、翌年に『天地創造』で共演することができました。東京ドームでの社会人野球の開会式で、『君が代』も歌わせていただきました。ただ、学生音コン優勝と言っても、学生全員が出るものでもないし、競争というものはこれからも続いていきます。だから、受かった、よし、というのではなく、受かった後に力を付けていかないと。たとえもっと大きなコンクールを取ったとしても、やはりコンクールでしかなく、僕らの仕事としては演奏家として自分の価値を高め、いかに多くの人に聴いてもらえるかが勝負だと思います。

杉山　コンクールの前までは、将来の不安や迷いもあり、これからも歌の勉強を続けていけたらいいなという漠然とした考えでいました。それが1位をいただいてから1年後の自分、3年後の自分がどう進めばいいのかが、見えてきたことが大きな変化でした。コンクールが終わった後、先生方、先輩や後輩、友人たちが、温かい拍手やお祝いの言葉をくださり、「武蔵野って、いい大学だなあ」と心から思いました。そしてやはり一番応援してくれた家族にとても感謝しています。

波佐間　私は入賞したことによって、4年間勉強してきた方向性にさらに自信がついたことが一番の変化です。あとは全国大会のときに、横浜の会場まで両親は九州から、友達は東京からわざわざ来てくれ、先生方もお忙しい中直前まで連絡をくださっていました。本当に多くの人に支えられているのだなと改めて感じ、感謝の気持ちが強くなりました。

栄冠につながる日々の努力

――武蔵野で学んだことが、コンクールにどう役立ったとお考えですか。

波佐間　私は最初から演奏家になりたくて、ヴィルトゥオーソ学科に入りました。1期生です。現在師事している小畑朱実先生と田辺とおる先生の影響が、一番大きかったですね。先生の音楽への情熱や愛をすごく感じながら勉強してきました。ヴィルトゥオーソ学科では、1年のときから20分のプログラムを演奏しないといけませんし、3年になれば、前期で30分、後期で30分というプログラムをこなすという大変な課題を課せられます。こうしたことがレパートリーを増やしたり、コンクールのときの選曲の際に非常に役に立ちました。

杉山　私は普通科の高校でしたので、人前で歌うことに慣れていませんでした。武蔵野に入って、授業や試験などで、舞台で歌う機会が多くあり、人前で歌うことに徐々に慣れてきました。やはり学校の授業や試験の経験、そして先生方のご指導のおかげで、今の自分がいるのだと思います。

大西　僕にとってもオペラコースというものが大きなものとしてあります。舞台に立つことは非日常的なものですが、幸運なことに、武蔵野ではオペラ公演、オペラコースの試演会、卒業演奏会などさまざまな演奏の場に出していただきました。こうした経験によって、気負うことのない精神性みたいなものを含めて学んだ、それがこの大学の6年間を通じて本当に大きいと思います。

守谷　音楽大学のあるべき姿だと思うのですけれども、音楽を丁寧に作っていくことを何よりも学んだ気がします。それは個人的な佐橋先生とのレッスンでもそうですし、オペラコースでもそうなのですけれども、作品ときちんと真摯に向き合って、一つひとつを丁寧に地道に作り上げていくということの難しさと大切さ、音楽に対して絶対に嘘を

杉山由紀 *Yuki Sugiyama*

■第63回全日本学生音楽コンクール声楽部門、大学・一般の部 第1位、横浜市民賞（大学院2年時）

埼玉県立春日部女子高等学校卒業。武蔵野音楽大学声楽学科卒業、同大学院音楽研究科修士課程2年。小畑朱実氏、子安ゆかり氏に師事。本大学卒業演奏会および大学院修士課程在学生によるコンサートに出演。第11回全国「叱られて」歌唱コンクール一般の部優秀賞受賞。

ついてはいけないということを学んだ6年間でした。

――皆さんに続く武蔵野の後輩へアドバイスをお願いします。

守谷　演奏を中心としたカリキュラムが組まれているヴィルトゥオーソ学科であれば、1年のときから20分、30分の演奏プログラムで試験がありますが、声楽学科にはなかなかそういった試験内容はないので、レパートリーになるような曲を積極的に増やしていかないとどうしても曲数が限られてきます。学生音コンは曲数が多いし、レパートリーを増やすためにも、少しでも興味のある曲であったり作曲家を見つけたら、聴いてみるだけでも違うのではないでしょうか。

大西　音楽大学で学ぶことは、非常に多岐にわたります。語学がまずありますし、僕が受けたオペラコース、それからリート伴奏法、歌曲を中心としたクラスもあります。他にも音楽理論の和声、作品研究とかレパートリー研究とか、いろいろな授業があって、どれも絶対無駄にはならないと思います。

学長先生は「謙虚さと自信を持ち合わせた人間になれ」とよく話されますが、まさにその通りだと思います。いま現在、同じ年代の人間が世界でどれほど活躍しているのかということを考えると恐ろしくなる。世界には音楽の魅力に取り付かれて、死に物狂いで頑張っている若い人たちがいっぱいいる。そういう人たちを意識しつつ、広い目を持ってやっていってほしいと思います。

杉山　やはり学校の授業や与えられた機会というのはすごく大事ですし、もっと全力で取り組めば良かったと反省しているところです。後輩たちにはそんな後悔はしてほしくないです。自分が今できることをしっかりやることは、本当に大事なこと。もしコンクールを受けるのであれば、やはり人は人、自分は自分ということを割り切って考えて、自分が今できる最高の演奏をしようという姿勢で臨むと、良い結果に繋がるのではないかと思います。

波佐間成美 *Narumi Hazama*

■第63回全日本学生音楽コンクール声楽部門、大学・一般の部 第3位（大学4年時）

福岡雙葉高等学校卒業。武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ学科4年。元主菊代、E.オブラスツォワ、田辺とおる、小畑朱実の各氏に師事。本大学主催ニュー・ストリーム・コンサート、オペラコース試演会等に出演。日本クラシック音楽コンクール全国大会等入賞歴多数。

波佐間　私はこれから院に進むところなので、あまり偉そうなことは言えないのですが…。やはりコンクールとはいえ一つの舞台だと思うので、人前で演奏できることに幸せを感じて、自分のやってきたことに自信を持って演奏できればいいのではないかと思います。

夢はさらに大きく、世界へ

――最後に、今後の予定や将来への抱負をお聞かせください。

波佐間　大学院に新設されるヴィルトゥオーソコースの1期生になる予定ですが、それと同時に二期会の研修所も受けようと思っています。研修所と学校の両立が第一の目標で、あとは受けたいコンクールもあって、まずはそれらを一つひとつクリアできればいいかなと思っています。

杉山　私も二期会の予科を受けたいと思っています。まだいろいろ考えているところですが、今回いただいた賞に恥じないような歌を歌えるように、もっともっと勉強していきたいと思っています。

大西　ジュリアード留学を目指して、いま英語の試験を受けています。受かっても受からなくても、アメリカかロシアか、取りあえず留学を考えています。世界に目を向けて、自分の力がどこまで試せるか。精神力、根性、そういったものも含めて、自分がどれだけ世界でやっていけるか。僕くらいの年齢になると、同世代には既にデビューしている人も多いですから、ふるいにかけられてもおかしくない年代です。そういう自覚を持っていろいろな所へ出て、最終的には国内外の歌劇団などで歌える歌い手になりたいと思っています。

守谷　杉山さんと波佐間さんがチャレンジしようとしている二期会の研修所に、おととしマスタークラスから入り、昨年4月から二期会の会員になりました。私はもちろんオペラが大好きですけれど、オペラだけではなく、歌曲やミュージカルとかも大好きで、さまざまな曲を日本人の歌い手としてきちんと演奏できる演奏者になりたいと思っています。例えばミュージカルに関して、ミュージカル歌手というジャンルが日本にはあって、もちろん素晴らしい歌い手もたくさんいらっしゃるのですけれども、声楽家として、声楽を専門に学んだ人間としての歌い方であるとか、演奏方法というものもあると思うのです。私は「音楽」というものが好きなので、オペラに限らずたくさんの曲に出会い、それをきちんと演奏できる演奏者になりたいと思っています。

第16回 武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ

今年、第16回を迎える「武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ」が下記のような豪華教授陣を揃えて開催されます。このサマースクールは、音楽の専門的な教育を受け、プロの音楽家や音楽教育に携わることを目指す人たちに、専攻実技を磨く絶好の場を提供するものです。

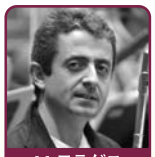
A.v.アルニム

I.イーティン

A.セメツキー

N.トゥルーリ

U.ヘルシャー


M.モラゲス

堀内康雄

松本美和子

●開講期間・会場
平成22年7月19日(月)～29日(木)
武蔵野音楽大学・江古田キャンパス

●開設講座及び講師
ピアノ＝A.v.アルニム
ピアノ／ピアノ・デュオ＝I.イーティン
A.セメツキー、N.トゥルーリ
ヴァイオリン／弦楽クワルテット＝U.ヘルシャー
フルート＝M.モラゲス
声楽＝堀内康雄、松本美和子

●募集人数・応募資格
1講座につき10～12名。ピアノ・デュオ、弦楽クワルテットはグループで受け付けます。専門的教育を受けている方。国籍不問。ただし声楽は20歳から50歳まで。

●受講時間
ピアノ、ピアノ・デュオ、ヴァイオリン、弦楽クワルテット＝1回90分で3回
フルート、声楽＝1回60分で4回
(講師により当該時間を変則的に組替える場合があります)

●受講料
1人120,000円、ピアノ・デュオは1人70,000円、弦楽クワルテットは1人40,000円
(レッスン料、通訳料、演奏会・ピアノ音楽セミナー入場料、懇談会費等を含む)

●演奏会等
ピアノ、ヴァイオリン講師によるリサイタル、ピアノ音楽セミナー

●お問い合わせ・要項請求
要項は4月に発行、武蔵野音楽大学演奏部TEL.03-3992-1120へご請求ください(要項は無料、送料は大学が負担します)。また、ホームページ、携帯サイト(アドレスは裏表紙参照)からも請求ができます。

＊講師の病気、その他やむを得ない事情により、一部内容を変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

附属3音楽教室、合同演奏会開催

昨年11月15日、本学園創立80周年を記念し、大学附属江古田・入間・多摩の3音楽教室による合同演奏会が、江古田キャンパスベートーヴェンホールで行われました。前半は各教室から選抜された、ピアノ、ヴァイオリン、マリンバ、声楽の生徒によるソロ。後半ではエクセレンス・コースの生徒をソリストに、この演奏会のために結成された3音楽教室生徒による弦合奏の共演により、チェロとピアノの協奏曲が演奏され、この初の試みに会場から大きな声援が送られました。

そして、演奏会の最後に選抜生で結成された合唱団と弦楽合奏により、モーツァルトのアレルヤが演奏され、感動的なフィナーレとなりました。

入間キャンパスに新たな彫刻が仲間入り
～附属高等学校卒業記念石彫寄贈～

入間キャンパスには、附属高等学校生の卒業記念として様々な彫刻が設置されていて、訪れる人びとの目を楽しませてくれます。この度、平成21年度卒業生一同からの記念品として、新たに石彫が寄贈されました。

作品は、二科会会員の市川明廣氏作「ふわり」。～風と共に遠くから聞こえてくる、心に染み入る音楽に誘われ、魔法のじゅうたんに乗って、ふわり。その源・桃源郷に飛び立とうとする様～ このような市川氏のコメントが添えられており、素材が大理石でありながら今にも動き出しそうな躍動感が伝わってきます。

自然と音楽が溢れる入間キャンパスに相応しい作品で、音楽を学ぶ学生や生徒たちの気分を優しく和ませてくれることでしょう。

栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）

（前号までの未掲載分、順不同、敬称略、経歴は受賞時のもの）

●名倉　誠人
（昭和62年大学卒マリンバ専攻　本大学院修士課程修了）
2009年度　第19回　青山音楽賞　バロックザール賞受賞

●三戸　大久（平成12年大学卒声楽専攻）
第40回　イタリア声楽コンコルソ　シエナ部門　金賞受賞

●菊田　亜樹(平成13年大学卒ピアノ専攻)第10回　北関東ピアノコンクール　ピアノソロ　一般Sの部　第1位入賞、朝日新聞社賞受賞　●佐々本　彩子(平成18年大学卒フルート専攻　本大学院修士課程修了　本大学院博士課程2年次在学)第8回　ひろば賞コンクール　管楽器部門賞(管楽器部門 第1位)受賞　●中島　健(平成17年大学卒ピアノ専攻)第1回　東京ピアノコンクール　一般部門　第2位入賞、第3回　エレーナ・リヒテル国際ピアノコンクール　大学・一般部門　第3位入賞　●山田　祥子(大学3年次在学ピアノ専攻　本高校卒)チェコ音楽コンクール2009　ピアノ部門　第2位入賞(1位なし)　●込山　由貴子(平成21年大学卒声楽専攻　本大学院修士課程1年次在学)チェコ音楽コンクール2009　声楽部門　第2位入賞、第20回　友愛ドイツ歌曲(リート)コンクール　一般の部　入選　●三代川　恭子(平成17年大学卒ピアノ専攻　本特修科修了)チェコ音楽コンクール2009　ピアノ部門　第3位入賞(1位なし)、第10回　ローゼンストック国際ピアノコンクール　審査員特別賞受賞　●中島　麻衣(大学4年次在学ピアノ専攻)第10回　北関東ピアノコンクール　ピアノソロ　大学生Sの部　第3位入賞　●沖野　聡子(平成21年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程1年次在学)第2回　イタリアピアノコンコルソ　聴衆賞受賞　●前田　菜々子(大学4年次在学ピアノ専攻)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　ピアノ部門　大学女子の部　第5位入賞(1～4位なし)　●横山　典子(平成19年大学卒声楽専攻)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　声楽部門　シニア女子の部　第5位入賞(1、2位なし)　●宮﨑　梨咲(大学3年次在学ピアノ専攻　本高等学校卒)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　ピアノ部門　大学女子の部　入選　●新井　悠美(大学2年次在学ピアノ専攻)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　ピアノ部門　大学女子の部　入選　●鈴木　亜季(大学2年次在学ピアノ専攻)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　ピアノ部門　大学女子の部　入選　●須田　詩織(大学2年次在学ピアノ専攻)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　ピアノ部門　大学女子の部　入選　●大畑　典子(大学4年次在学声楽専攻)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　声楽部門　ジュニア女子の部　入選　●中山　優美(大学3年次在学フルート専攻)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　フルート部門　シニア女子の部　入選　●西山　幸希(大学3年次在学ピアノ専攻)第17回　全日本ジュニアクラシック音楽コンクール　大学生の部　ピアノ部門　審査員賞受賞　●堀部　祥子(平成19年大学卒ピアノ専攻)第3回　近・現代音楽コンクール　奨励賞受賞　●明神　適子(平成21年大学卒マリンバ専攻　本大学院修士課程1年次在学)第15回　KOBE国際音楽コンクール　打楽器C部門　奨励賞受賞　●橋本　麻衣子(大学4年次在学ピアノ専攻)第14回　ペトロフピアノコンクール　大学・一般部門　奨励賞受賞　●大熊　啓史(大学3年次在学テューバ専攻　本高等学校卒)第22回　大仙市大曲新人音楽祭コンクール　奨励賞受賞　●橋爪　貴美(平成21年大学卒ピアノ専攻　本大学院修士課程1年次在学)第43回　国際芸術連盟新人オーディション　ピアノ部門　合格　●北川　了己(大学4年次在学ピアノ専攻)第43回　国際芸術連盟新人オーディション　ピアノ部門　合格　●西澤　美穂(大学4年次在学ピアノ専攻)第43回　国際芸術連盟新人オーディション　ピアノ部門　合格　●吉田　恵美(平成17年大学卒声楽専攻)第43回　国際芸術連盟新人オーディション　声楽部門　合格　●野村　直子(大学3年次在学ヴァイオリン専攻)／●浅井　智佳子(大学3年次在学チェロ専攻)／●清水　朋美(大学3年次在学ピアノ専攻)第43回　国際芸術連盟新人オーディション　室内楽部門　合格　●岩永　圭司(大学3年次在学ピアノ専攻)日本ピアノ教育連盟　第26回　ピアノ・オーディション　東海地区予選　E部門　優秀賞受賞　●田中　舞(本高校1年次在学ピアノ専攻)第10回　北関東ピアノコンクール　ピアノソロ　高校生Sの部　第1位入賞、第14回　ペトロフピアノコンクール　高校生部門　審査員賞受賞　●後藤　亜蘭(本高校3年次在学ファゴット専攻)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　木管楽器部門　ジュニア男子の部　第5位入賞(1、2位なし)　●八十田　志保(本高校2年次在学ピアノ専攻)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　ピアノ部門　高校女子の部　入選　●犬飼　まお(附属入間音楽教室在室　東星学園高等学校1年生)第11回　ショパン国際ピアノコンクール　in ASIA　栃木地区大会　コンチェルトB部門　金賞、アジア大会　コンチェルトB部門　銀賞受賞　●入岡　美澪(附属江古田音楽教室在室　杉並区立桃井第一小学校4年生)第11回　ショパン国際ピアノコンクール　in ASIA　神奈川地区大会　小学3・4年生部門　銅賞受賞、全国大会出場　●清水　千夏(附属江古田音楽教室在室　聖徳学園小学校2年生)第4回　西関東ジュニア・ピアノコンクール　ピアノ・ソロ部門　D課程　アルゼンチン大使館賞受賞　●権　敏敬(附属江古田音楽教室在室　練馬区立豊玉小学校6年生)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　ピアノ部門　小学校女子の部　入選　●大谷　舞(附属入間音楽教室在室　入間市立藤沢北小学校4年生)第19回　日本クラシック音楽コンクール　全国大会　ヴァイオリン部門　小学校女子の部　入選　●磯崎　優(附属江古田音楽教室在室　練馬区立春日小学校4年生)第19回　日本クラシック音楽コンクール　地区本選会　ピアノ部門　小学の部　好演賞受賞　●京増　修史(附属江古田音楽教室在室　京華中学校1年生)第63回　全日本学生音楽コンクール　東京大会本選　ピアノ部門　中学校の部　入選　●濱本　彩寧(附属江古田音楽教室在室　練馬区立北町小学校2年生)第17回　ヤングアーチストピアノコンクール　ファイナル　ピアノ独奏部門　Aグループ　入賞　●吉野　奈津貴(附属入間音楽教室在室　入間市立仏子小学校4年生)日本ピアノ教育連盟　第26回　ピアノ・オーディション　関東地区予選　JⅡ部門　奨励賞受賞　●鎌田　大翔(武蔵野音楽大学第一幼稚園在園)第3回　ベーテンピアノコンクール　全国大会　自由曲コース　未就学児部門　第1位入賞、受賞者記念演奏会出演、第19回　グレンツェンピアノコンクール　関東大会　本選　幼児Aコース　金賞受賞

着任外国人教授紹介（平成22年度前期）

ケマル・ゲキチ
Kemal Gekić（ピアノ／クロアチア）

1962年クロアチア生まれ。旧ユーゴのノヴィサッド音楽院で学ぶ。史上最高得点でディプロマを取得。1981年国際リスト音楽コンクール第2位他、受賞多数。1985年のショパン国際コンクールでは、聴衆の圧倒的支持を得て名誉賞受賞。その後世界各地で活発な演奏活動を展開し、特にリストの第一人者として不動の地位を築いている。フロリダ国際大学教授。

ロバート・ダヴィドヴィッチ
Robert Davidovici（ヴァイオリン／アメリカ）

ルーマニア生まれ。ジュリアード音楽院にてガラミアンに師事。カーネギーホール国際アメリカ音楽コンクール第1位受賞。以後幅広いレパートリーで世界的に演奏活動を行っている。大阪フィルハーモニー交響楽団、バンクーバー交響楽団等のコンサートマスターも務めた。フロリダ国際大学教授。

リチャード・K. ハンセン
Richard K. Hansen（ウィンドアンサンブル指揮／アメリカ）

ミネソタ大学大学院にて音楽学を専攻、現在はセント・クロード州立大学のバンドディレクター及び指揮・音楽学の教授を務める。米国はもとより、ヨーロッパ、ロシアなどにゲストコンダクターとして招かれ高い評価を得ている他、国際吹奏楽協会などで活発に論文や著作を発表している。

大学院修士課程にヴィルトゥオーソコースが新たにスタート

平成22年度から、大学院修士課程の器楽専攻、声楽専攻それぞれに「ヴィルトゥオーソコース」が新たに設置されました。カリキュラムの特長は、専攻実技に重点を置いた一層高度な専攻研究によって、修士の学位を授与します。授業科目には「文献研究」などがありますが、修士論文の提出は義務づけておりません。

武蔵野音楽学園創立80周年記念　ご寄附をいただいた方々

学校法人武蔵野音楽学園では、創立80周年を記念して、福井直秋記念奨学基金、演奏活動特別基金の拡充を目的とする寄附金を募集しましたところ、下記の方々からご寄附をいただきました。ここにご芳名を掲載し、深く感謝の意を表します。　学校法人　武蔵野音楽学園

※ご芳名（五十音順）は、平成21年11月8日から平成22年2月5日までの間にご寄附いただいた方々です。それ以降の方々は、次号に掲載させていただきます。また勝手ながら掲載区分は当方で決めさせていただきました。何卒ご了承ください。

【同窓生】稲澤博様　今倉隆三様　上原正子様　大口光子様　海瀬慶子様　加藤けい子様　金津るみ様　神山晴子様　茅凡子様　窪田由美子様　小泉敏惠様　佐藤静子様　佐藤三津子様　澤井幸繪様　中村裕美様　八谷惠子様　廣瀬惠子様　藤沢教彰様　松澤百合子様　本野央様　矢島勝様　四元孝子様　脇谷直樹様　同窓会群馬県支部様　同窓会長野県支部様　平成7年度入学生同期会一同様

【在校生ご父母】志村良郎様

【役員・教職員・一般・他】相川まどか様　相田榮子様　新井純子様　安西直之様・博子様　池澤佳代子様　伊藤のり子様　今川佐和子様　上原明様　上原昭二様　宇都宮誠一様　大石穣様　大橋宗夫様　小笠原詠子様　影山香苗様　金子靖様　川内政俊様　後藤恭子様　佐藤徹様　佐藤恵様　柴香苗様　鈴木祥子様　相馬清美様　高田幸子様　田中悠様　徳川愛子様　富山紀美子様　中島克久様　中嶋伸夫様　新見聖子様　野口公子様　服部真紀子様　播博様　稗方瑞子様　平田亜矢様　福井修様　福井直矩様　福井直祥様　藤井清和様　藤沼昭彦様　藤本香様　堀田健介様・公子様　前澤君惠様　三木啓史様　三澤ミヨ様　宮寺明彦様　本野洋子様　本橋香代子様　八尾健介様　四本由喜江様　渡辺朗子様　ピアノ新人会様　㈲タナカピアノサービス様　㈱三井住友銀行様　㈱大和産業様　（他に匿名を希望される方29名）

平成22年度夏期講習会のお知らせ

平成22年度の武蔵野音楽大学、武蔵野音楽大学附属高等学校の夏期講習会（音楽大学受験講習会、高校音楽科受験講習会、社会人のための夏期研修講座、免許法認定講習※）を、下記のとおり実施します。

※教員免許状更新講習とは異なります。

講座名	会場
大学受験講習会　①7/28～7/31　②8/2～8/5	入間キャンパス
高校音楽科受験講習会　7/28～7/30	
社会人のための夏期研修講座　7/29～7/31	江古田キャンパス
免許法認定講習　7/25～8/5	

◎講習会要項は6月上旬発行の予定。要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室（TEL.03-3992-1125）またはホームページ、携帯サイト（アドレスは裏表紙参照）にてお申し込みください。（要項は無料、郵送料は学園が負担します）

平成22年度 教員免許状更新講習のお知らせ

武蔵野音楽大学では、教員免許更新制の開始に伴い、平成21年度から、文部科学大臣の認定を受けて、免許状更新講習を開講しています。本学では、小学校、中学校および高等学校の、音楽を中心とする教員を対象に、必修領域「教育事情」12時間と選択領域「教科指導」18時間、合計30時間を開講します。

講習期間	会場
① 必修領域（12時間）8／1・2　の2日間 ② 選択領域（18時間）8／3～5　の3日間	江古田キャンパス

◎要項の請求は、武蔵野音楽学園広報企画室（TEL.03-3992-1125）またはホームページ、携帯サイト（アドレスは裏表紙参照）にてお申し込みください。（要項は無料、郵送料は学園が負担します）

●表紙の写真

武蔵野音楽大学管弦楽団 in リスト音楽院〔2009年9月23日〕

武蔵野音楽学園創立80周年と日本・ハンガリー国交回復50周年を記念する交流事業の一環として、昨年9月に実施された武蔵野音楽大学管弦楽団のハンガリー公演。写真は、ハンガリー国内5ヵ所で行われた公演の皮切りとなったリスト音楽院大ホール（ブダペスト）での1コマ。本学管弦楽団が伝統ある同ホールで公演するのは、2001年に“ブダペスト スプリング フェスティヴァル2001”に招かれて以来のこと。思い出深いホールにおいて、ハンガリー出身のカールマン・ベルケシュ氏（本学客員教授）の指揮のもと、同国を代表する作曲家であるリスト、コダーイの作品等を力いっぱい熱演し、万雷の拍手を浴びました。和楽器を取り入れた日本情緒たっぷりのアンコール曲“八木節”も異国の観客の興味をひき、ひときわ大きな拍手をいただきました。

平成22年度4月～7月公開講座・演奏会のお知らせ

武蔵野音楽大学大学院修士課程在学生によるコンサート1	4月21日(水)	18：00 バッハザール（入間）	入場無料〈全席自由・要入場整理券〉
武蔵野音楽大学大学院修士課程在学生によるコンサート2	4月22日(木)	18：00 バッハザール（入間）	入場無料〈全席自由・要入場整理券〉
武蔵野音楽大学平成21年度音楽学部新人演奏会	4月26日(月)	18：30 津田ホール	￥2,000〈全席自由〉
武蔵野音楽大学平成21年度大学院修士課程新人演奏会	5月17日(月)	18：30 津田ホール	￥2,000〈全席自由〉
ルーサーカレッジ・コンサートバンド演奏会	6月 3日(木)	18：00 バッハザール（入間）	入場無料〈全席自由・要入場整理券〉
クルト・グントナー・トリオ演奏会	6月 9日(水)	18：30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
武蔵野音楽大学平成21年度ヴィルトゥオーソ学科新人演奏会	6月14日(月)	18：30 津田ホール	￥2,000〈全席自由〉
ロバート・ダヴィドヴィッチ　ヴァイオリン・リサイタル	6月24日(木)	18：30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
ニュー・ストリーム・コンサートⅩⅡ　武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ学科演奏会1	6月29日(火)	18：00 バッハザール（入間）	入場無料〈全席自由・要入場整理券〉
ニュー・ストリーム・コンサートⅩⅢ　武蔵野音楽大学ヴィルトゥオーソ学科演奏会2	6月30日(水)	18：00 バッハザール（入間）	入場無料〈全席自由・要入場整理券〉
ケマル・ゲキチ　ピアノ・リサイタル	7月 1日(木)	18：30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
武蔵野音楽大学ウィンドアンサンブル演奏会	7月 6日(火)	18：30 宝山ホール 鹿児島県文化センター	一般￥1,500 学生￥1,000〈全席自由〉
	7月 8日(木)	18：30 北九州芸術劇場 大ホール	一般￥1,500 学生￥1,000〈全席自由〉
	7月16日(金)	18：30 東京オペラシティ コンサートホール	￥1,500〈全席指定〉
武蔵野音楽大学室内管弦楽団演奏会	7月 9日(金)	18：30 ベートーヴェンホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉
武蔵野音楽大学インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ 世界の名教授たちによるスペシャルコンサート			
イリヤ・イーティン　ピアノ・リサイタル	7月22日(木)	18：00 ベートーヴェンホール（江古田）	￥2,000〈全席自由〉
ウルフ・ヘルシャー（Vn.）＆アルヌルフ・フォン・アルニム（Pf.）　デュオ・リサイタル	7月26日(月)	18：00 ベートーヴェンホール（江古田）	￥2,000〈全席自由〉
ピアノ音楽セミナー　講師：ナターリャ・トゥルーリ	7月24日(土)	18：00 モーツァルトホール（江古田）	￥1,000〈全席自由〉

お問い合わせ　●武蔵野音楽大学江古田キャンパス演奏部 TEL.03-3992-1120　●武蔵野音楽大学入間キャンパス演奏部 TEL.04-2932-3108
※講師の病気、その他やむを得ない事情により、内容を変更する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

平成22年度 武蔵野音楽大学 武蔵野音楽大学附属高等学校 オープンキャンパス・学校説明会

本学では、武蔵野の教育理念・内容を理解していただくために、音楽大学、高等学校音楽科に進学を希望している高校生、中学生、小学生とその指導者、保護者の方々を対象に武蔵野音楽大学、同附属高等学校のオープンキャンパス・学校説明会を各地で開催しています。
平成22年度は下記のとおり開催しますので、ぜひご参加ください。

日 程	会 場	申込締切
● 5月16日(日)	高松市「高松市生涯学習センターまなびCAN」	4月28日(水)
● 5月23日(日)	「武蔵野音楽大学 江古田キャンパス」 ※大学のみの説明会となります	5月 6日(木)
● 5月30日(日)	札幌市「ヤマハセンター2F アベニューホール」	5月13日(木)
● 5月30日(日)	長岡市「長岡市立劇場」	5月13日(木)
● 6月 6日(日)	「武蔵野音楽学園 入間キャンパス」	5月20日(木)
● 6月13日(日)	山形市「㈱富岡本店」	5月27日(木)
● 6月20日(日)	静岡市「グランシップ」	6月 3日(木)
● 6月27日(日)	名古屋市「㈱ヤマハミュージック東海 名古屋店」	6月10日(木)
● 6月27日(日)	長野市「ホクト文化ホール」	6月10日(木)
● 7月 4日(日)	熊本市「熊本県立劇場」	6月17日(木)
● 11月14日(日)	「武蔵野音楽学園 入間キャンパス」	10月28日(木)

【説明会の内容】　●10：00～16：00（予定）●ガイダンス（大学・高等学校別に行います）
●ミニコンサート ●受験相談（希望者のみ）●ワンポイント・レッスン（希望者のみ）
●参加無料（簡単な昼食を用意します）

【お申し込み・お問い合わせ】武蔵野音楽学園広報企画室
〒176-8521 東京都練馬区羽沢1-13-1 TEL.03-3992-1125　FAX.03-3991-7599
※ホームページ、携帯サイト（アドレスは裏表紙参照）からもお申し込みができます。

編集後記

昨年、2009年は武蔵野音楽学園の創立80周年であり、記念する様々なコンサート、イベントが開催されました。本号では、メモリアルとしてその模様を写真中心に8ページにわたってご紹介しました。つづく本年、2010年はシューマン、ショパンの生誕200年、マーラーの生誕150年と、これまた音楽を愛する者には特別な年。本学教授の寺本まり子先生から、シューマンの音楽の源を辿るタイムリーかつ興味深い原稿をいただきました。

そして春、新年度の始まり。「私の学園生活」では、このフレッシュな季節にふさわしく、全日本学生音楽コンクールにおいて優秀な成績を収めた武蔵野の若き歌い手たちが音楽への想いや将来について熱く語ってくれました（編）。

武蔵野音楽大学楽器博物館だより――――

クロマティック・バスホルン

シュトライトヴォルフ作　ドイツ　1830年頃　全長128cm

ピストンやロータリーなどで管長を変えるヴァルヴ・システムは、自然な響きを損なわずにさまざまな音高を得ることが可能で、多くの金管楽器に普及している。しかし、ベルリンのシュテルツェルがこのヴァルヴ・システムを発明する1815年より以前の金管楽器には、木管楽器のように管に穴を開け、キイを取り付けたものが多数見られた。このような楽器のひとつがバスホルンで、1790年代に、当時フランス革命の動乱を避けロンドンに避難していたフランス人、フリショにより考案された。

S字型の吹奏楽器セルパンの奏者であったフリショは、自然な体勢で楽器を構えられるように、セルパンを縦型に変えバスホルンを考案した。この楽器は主にイギリスの吹奏楽で人気を博したことから、イングリッシュ・バスホルンと呼ばれた。さらに1820年、ドイツのシュトライトヴォルフは、3～4キイしか装着されていなかったバスホルンに多数のキイを加え、無理のない運指で半音階が演奏できる楽器としてクロマティック・バスホルンを考案した。この楽器について、当時の音楽新聞は、すべての半音が澄んだ力強い音で演奏できると紹介している。

金管楽器にキイを付ける方法は、正確な音程の確保や音色の統一が困難なため、主に内径の大きな低音楽器に用いられた。バスホルンは、後に登場するオフィクレイドにその座を譲る。オフィクレイドは、キイを装着した低音金管楽器としては比較的普及したが、やがてヴァルヴ・システムを備えたテューバの台頭により姿を消した。バスホルンは、セルパンからオフィクレイド、そして現在のテューバ、ユーフォニアムに至る低音金管楽器セクションの発達過程を検証する楽器と位置付けることができる。

（武蔵野音楽大学楽器博物館所蔵）

⌘ 目　次 ⌘

平成22年度を迎えて …… 1
福井直敬

生誕200年を迎えるシューマンの街を巡って …… 2
寺本まり子

音楽余話 …… 5
ペダルは 足で踏む？　コンスタンティン・ガネフ

武蔵野音楽学園創立80周年の記録 CONCERTS & EVENTS 2009 …… 6

Campus Eye …… 14
次世代へ―― ベートーヴェンホールのオルガンがリフレッシュ

音楽の万華鏡 …… 14
ベートーヴェンと二つの作曲コンクール　楢崎洋子

私の学園生活 …… 15
全日本学生音楽コンクールに響いた武蔵野の歌声

MUSASHINO NEWS …… 19
⌘ 第16回 武蔵野音楽大学 インターナショナル・サマースクール・イン・トウキョウ
⌘ 附属3音楽教室、合同演奏会開催
⌘ 入間キャンパスに新たな彫刻が仲間入り
⌘ 栄冠おめでとう！（コンクール入賞者等）
⌘ 着任外国人教授紹介
⌘ 大学院修士課程にヴィルトゥオーソコースが新たにスタート
⌘ 武蔵野音楽学園創立80周年記念　ご寄附をいただいた方々
⌘ 平成22年度夏期講習会のお知らせ
⌘ 平成22年度教員免許状更新講習のお知らせ
⌘ 平成22年度4月～7月公開講座・演奏会のお知らせ
⌘ 平成22年度 武蔵野音楽大学 武蔵野音楽大学附属高等学校 オープンキャンパス・学校説明会

武蔵野音楽大学大学院
博士前期課程・博士後期課程
武蔵野音楽大学
武蔵野音楽大学附属高等学校
武蔵野音楽大学第一幼稚園
武蔵野音楽大学第二幼稚園
武蔵野音楽大学武蔵野幼稚園
附属音楽教室 江古田・入間・多摩

⌘発　行⌘
学校法人 武蔵野音楽学園

江古田キャンパス　●〒176-8521 東京都練馬区羽沢1丁目13-1 TEL.03-3992-1121（代表）
入間キャンパス　●〒358-8521 埼玉県入間市中神728 TEL.04-2932-2111（代表）
パルナソス多摩　●〒206-0033 東京都多摩市落合5-7-1 TEL.042-389-0711（代表）
http://www.musashino-music.ac.jp/

2010年4月1日発行　通巻第93号

携帯サイト
http://musaon.jp/